

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (69) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(69)—

1. 始めに

前報(68)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はピアノ四重奏曲です。

Camerata CMT-1079

モーツアルト ピアノ四重奏曲 1 番ト短調

ピアノ四重奏曲 2 番変ホ長調

遠山慶子 (ピアノ)

ウェルナー・ヒンク (ヴァイオリン)

クラウス・パイシュタイナー (ヴィオラ)

ライハルト・レップ (チェロ)

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

Camerata 盤ということで、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

遠山慶子の演奏は、ヘブラーやハスキルと違って、いかにも最近の演奏という印象で、さっぱりとして銜いのないもので、弦楽の方もウイーン弦楽四重奏団のメンバーで、これに合わせてクリアーカットな演奏になっています。

録音もデジタル録音らしい切れの良い音になっています。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、いかにも最近の演奏、デジタル録音という感じを捉えています。

以上